

# 安全報告書 2010

## ダイジェスト版



### ごあいさつ

JR九州をご利用いただきましてありがとうございます。

お客さまに目的地まで安全・快適にご利用いただくため、日々安全・安定輸送を第一に全力で取り組んでおります。このたび、平成21年度の安全への取り組み等について「安全報告書2010」としてまとめさせていただきました。

弊社では、全社員の安全意識を高め安全を風土にする「安全創造運動」を2006年から取り組んでおり、鉄道運転事故等の未然防止や再発防止に努めてきました。

昨年度も、重大な鉄道運転事故の発生はなく、車両や設備等の故障による輸送障害も減少するなど、取り組みの成果が着実に現れているものと考えています。

今年度は、安全中期計画(2009～2011)の2年目として、設定した数値目標に対する取り組みの強化を図り、基本方針として定めた重点実施項目について具体的な施策を展開して、引き続き安全・安定輸送の確保に努めてまいります。特に、安全マネジメントの強化として関係法令及び規程などの遵守を徹底した業務運営を進めるとともに、定期的な安全監査や安全点検の実施によりPDCAサイクルを適切に機能させ、グループ会社と情報の共有化を図り、更なる安全風土の形成を推進してまいります。

また、九州新幹線の全線開業と新博多駅ビル「JR博多シティ」の開業という二大プロジェクトが平成23年春に控えており、これに向けた工事が着々と進められています。博多駅をご利用のお客さまには何かとご不便をおかけしておりますが、安全対策に万全を期して工事を進めてまいりますので、工事完了までの間のご理解とご協力をお願いいたします。

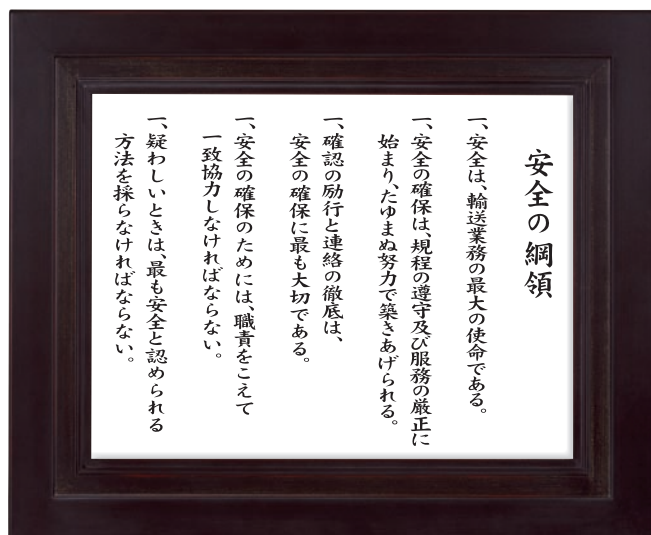
これからもお客さまに安心してご利用いただける公共交通機関として、安全・安定輸送に取り組んでまいりますのでJR九州をご愛顧賜りますようお願い申し上げます。



九州旅客鉄道株式会社  
代表取締役社長

唐池 恒二

弊社は、社員一人ひとりが常に心がけて行動する規範として「運転安全規範」を定めています。



運転安全規範 第2条(綱領)

# 安全中期計画（2009～2011）概要

「鉄道の安全・安定」、「社員等の安全」について、平成21年度から3年を期間とする安全中期計画を策定し、目標達成のための課題と解決の方向性である「5本の柱」を定めました。この計画を基として、重点実施項目を各年度の安全基本方針として定め、具体的な施策に取り組むことで目標達成を目指すとともに、平成23年春に迫った「九州新幹線鹿児島ルート全線開業」、「新博多駅ビル開業」を無事故で完遂させ、新しい時代にふさわしい確固たる「安全風土」の基盤を構築します。

## 目 標

鉄道の安全	お客さまの死傷事故の撲滅
	鉄道運転事故発生率の低減
鉄道の安定	部内原因による大きな輸送障害の削減
	社員の取扱い誤りの削減
社員等の安全	社員等の死亡災害の撲滅
	社員等の労働災害の削減

## 目標達成のための5本の柱

### ●安全マネジメントの強化

- ①安全マネジメントサイクルの円滑化
- ②職場表彰制度を活用した社員の安全の取り組みへの意欲向上
- ③規程・要領等の改正、整備
- ④グループ安全管理体制の確立

### ●安全を支える人材の育成

- ①安全創造運動の推進
- ②技術継承の強化
- ③新たな安全教育の実施

### ●安全・安定輸送を確保する取組みの強化

- ①鉄道運転事故の削減
- ②インシデントの撲滅
- ③社員の取扱い誤りの削減
- ④車両・設備の故障の削減
- ⑤その他列車遅延の要因となるものへの対応
- ⑥防災への取組み
- ⑦大きな輸送障害への対応の強化

### ●労働災害の芽を摘む先取りの安全活動の推進

- ①労働安全に配慮した業務の推進
- ②労働災害に関する知識・技術の継承
- ③労働災害防止に向けた安全創造運動の積極的推進
- ④「九州新幹線全線開業」「新博多駅ビル」の無災害完遂

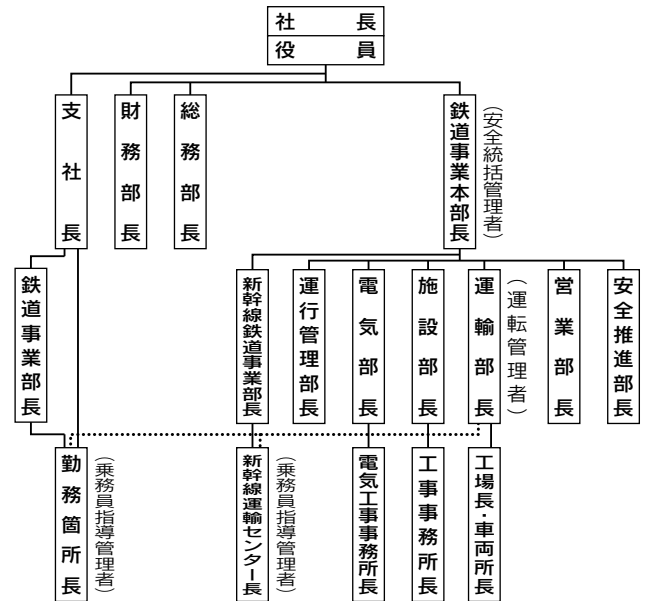
### ●危機管理体制の整備

- ①防災業務計画に基づく地震・津波対応策の整備
- ②テロ対策の充実
- ③新幹線全線開通に向けた体制の整備

## 安全管理体制

社長をトップに安全管理体制を確立し、輸送の安全の維持及び向上を図ることを目的としています。

◎安全管理体制図（H21.4.1現在）



※鉄道事業法第十八条の三に基づき「安全管理規定」を定め、安全統括管理者及び運輸管理者等を選任しています。  
 ※「支社長」とは、北部九州地域本社長及び長崎、大分、熊本、鹿児島各支社長をいいます。  
 ※「勤務箇所長」とは、現業機関（駅、区所等）の長をいいます。

## ◎主な責任者と役割

役 職	主 な 役 割
社 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸送の安全の確保に関する重要な事項を決定する。</li> <li>安全統括管理者がその職務を行う上での意見を尊重するとともに、必要により措置を講ずる。</li> </ul>
安全統括管理者（鉄道事業本部長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸送の安全を確保するための運転取扱い、車両、鉄道施設の各部門を統括する。</li> <li>安全意識の向上、関係法令等の遵守の徹底及び安全基本方針等の確実な実施を図る。</li> </ul>
運 転 管 理 者（運輸部長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸送の安全を優先する運行計画の作成及び改正、乗務員及び車両の運用、乗務員の育成及び資質の維持等を行う。</li> </ul>
乗務員指導管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>所属する乗務員の資質の維持、管理に努め、運転管理者へ報告する。</li> </ul>

## ◎安全マネジメントのPDCAサイクル



# ～安全中期計画の目標達成に向けて I～ 平成21年度安全基本方針

新たに策定した「安全中期計画(2009～2011)」の目標達成に向け、具体的な取組みを重点実施項目に定めて積極的に推進します。

## 重点実施項目

### 1 安全マネジメントの強化

トップコミットメントに基づいた施策を策定し、PDCAサイクル(計画・実施・評価・改善)を適切に機能させ、安全風土の形成に努めます。  
また、新たな取組みとしてJR九州グループ会社との『安全懇話会』を定期的に開催します。

### 2 安全を支える人材の育成

『安全風土を確かなものへ～「プロの5つの資質(安全意識、基本動作、情報共有、スキル、健康管理)」を高めよう～』をスローガンに安全創造運動2009を展開します。

### 3 安全・安定輸送を確保する取組みの強化

鉄道運転事故の削減に向けて、踏切障害事故対策に重点をおき各種取組みを推進します。社員の取扱い誤りについては、「お客さまの生命に係わる可能性のあるもの、お客さまに多大な迷惑をおかけするもの」であるⅠ種取扱い誤りについては、Ⅱ種取扱い誤りと区別した考え方を浸透させます。

### 4 労働災害の芽を摘む先取りの安全活動の推進

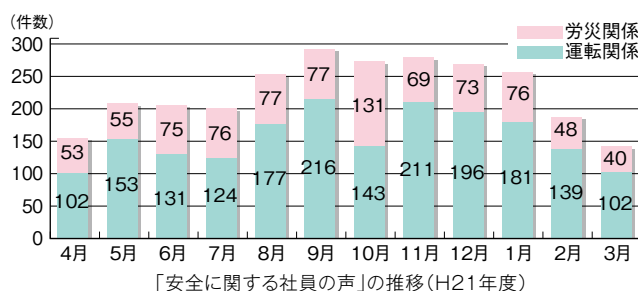
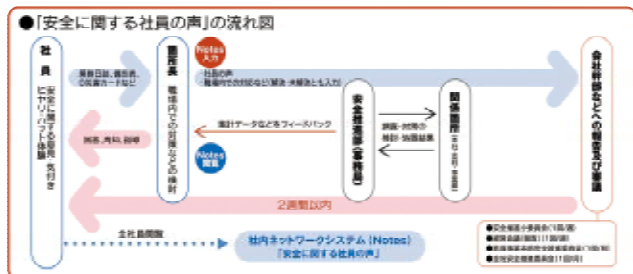
過去3年間の労働災害の発生は、JR九州及びJR九州グループ等で減少傾向が見られず、グループ一体となった取組みを強化します。

### 5 危機管理体制の整備

大規模な災害やテロ発生時に備えて、体制の整備・強化に努めます。東南海・南海地震に関しては、津波警標の整備、津波ハザードマップ運用マニュアルの整備・教育等、具体的な取組みを推進します。

## 安全管理の方法

「安全に関する社員の声」は、社内ネットワークシステムを通して会社全体で共有し、事故の未然防止につなげることを目的とした取組みであり、寄せられた声については2週間以内に経営会議で内容と対策を報告し、その情報は社員にも公開しています。平成21年度は、プロの5つの資質を安全風土の形成に向けて高めていくために「安全創造運動2009」を展開しました。



## 安全大会

平成21年5月に開催した「安全大会」では、JR九州グループ会社及び協力会社(92社)の安全担当者等(142名)と労働災害防止に向けた意思統一を図ることが出来ました。



## 安全創造取組発表会

平成21年10月に「安全に関する社員の声」を活用した取組みやスキルアップに向けた取組みが数多く発表され、取組みの水平展開が図られました。



## 安全創造講演会

平成22年2月に安全意識を高める取組みとして「平成21年度安全創造講演会」を開催し、(株)スターフライヤーの現役機長に「“そら”の知を鉄道へ～考える乗務員を育てる～」と題して、講演していただきました。





## 安全確保の措置

### ■現場社員とのコミュニケーションの強化

現場社員の意見や現状を迅速に把握し、事故防止に活かすため次の取組みを実施しました。

#### ◎社長と現場社員との意見交換会

従来の駅、車掌、運転士、車両、施設、電気に加え事業開発、旅行事業等の各系統の管理者および社員との意見交換会を実施しました。各職場における日頃の取組みや問題点などが直接社長に伝えられ、現場の現状や課題等について共有化が図られました。



このほか、安全統括管理者（鉄道事業本部長）と現場社員による意見交換会「オフサイトミーティング」や安全推進プロジェクト（駅運転、車掌、運転士を指導する本社各部に配置したベテランの担当部長）による管理者や社員との意見交換会を開催しました。

#### ◎安全懇話会

安全中期計画における新たな取組みとして、安全懇話会を毎月1回定期的に開催しました。各社の取扱い誤り及びヒヤリハット事例とその対策等を共有し、JR九州グループ一体となって安全風土の形成を図りました。



あらゆる場面で社員との意見交換会を開催し、「安全に関する現場の声」に真摯に耳を傾けました。また、グループ会社との連携を深めることで、グループ全体の安全風土を高めることができました。

### ■安全教育の実施

駅、車掌、運転士、車両、施設、電気の各系統において社員研修センターや訓練実習線を活用した安全教育を実施しました。



駅指導担当者異常時机上教育



新幹線運転シミュレーター訓練



車両保守に関わる社員の机上教育



保線社員の実習

### ■各種技術コンクールの実施

駅、車掌、運転士、車両、施設、電気の各系統において社員研修センターや訓練実習線及びシミュレーター訓練施設等を活用した技術コンクールを実施しました。



駅指導担当者異常時訓練



運転士異常時コンクール



電車線断線復旧競技会



施設技能（災害対応）訓練

### ■緊急時対応訓練

九州と本州を結ぶ関門トンネルの総合防災訓練、大規模地震を想定した避難誘導訓練及び各支社において総合脱線復旧訓練を実施しました。



関門トンネル総合防災訓練

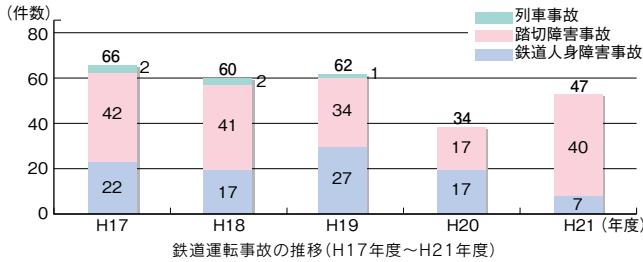


大規模災害避難誘導訓練

# 事故の発生状況と安全対策

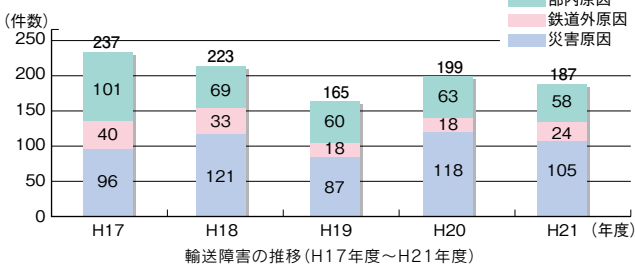
## ■鉄道運転事故

踏切障害事故が40件、鉄道人身障害事故が7件発生しました。踏切障害事故の主な原因は、6割が自動車の無理な踏切内通行により発生したものでした。また、鉄道人身障害事故の主な原因は線路内への不用意な立ち入りが大半でした。



## ■輸送障害

部内原因の内、車両及び鉄道設備に起因するものが44件発生しました。



## ■踏切の安全性向上

### ◎踏切の視認性の向上

踏切警報灯の増設・両面化や、全方向踏切警報灯(LED型)の導入にも取り組んでいます。

また、踏切付近の照明を増設し、夜間の視認性を向上させています。



### ◎踏切の整備等

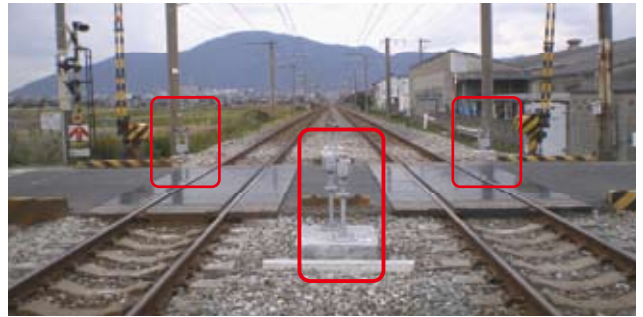
過去の踏切障害事象等から、今後3年間で対策を実施する要注意踏切を抽出し、道路管理者等との協議や踏切内停滞対策のための看板設置、路盤シールの接地等を実施しました。



### ◎踏切障害物検知装置等による支障物の監視

自動車等との衝突を未然に防止する目的で、踏切障害物検知装置を設備しています。平成21年度は、3箇所の踏切に対して設置しており、合計636箇所の踏切に設備しました。

また、踏切の異常を通報する目的で、踏切支障報知装置(非常ボタン)を設備しています。平成21年度は、27箇所の踏切に設置しており、合計1,113箇所の踏切に設備しました。



踏切障害物検知装置



踏切支障報知装置(非常ボタン)

### ◎里道等の安全対策

鉄道の安全・安定輸送並びに沿線地域の安全確保のため、線路横断箇所である里道等の安全対策について検討し、関係する自治体等と用地協議を行い、里道等133箇所を立入り防止柵等で封鎖しました。



## ■降雨防災対策

線路沿線の斜面については、集中豪雨や台風による状態変化、経年による表面風化等による落石及び崩落等を防止するため、平成21年度に28箇所の斜面対策工事を実施しました。





# お客さま、地域の皆さまと創る安全

## ■踏切事故防止キャンペーン

- 「春・秋の全国交通安全運動」の期間中、「踏切事故防止キャンペーン」を展開しました。駅コンコースや交通量の多い踏切において、自動車運転者や踏切通行者に対し踏切内でトラブルが生じた場合の対処法などを印刷したクリアファイルやチラシを配布し、踏切事故防止の協力を呼びかけました。また、駅前広場や自動車学校等において模擬踏切を使用した踏切安全講習会を開催しました。



クリアファイル



踏切安全講習会

- 鉄道沿線の小学校低学年児童を対象に、「踏切での安全確認」や「置石の禁止」等を描いたノートを配布し、踏切の安全通行と妨害防止を図るとともに、同封したチラシにより児童の保護者等にも踏切事故防止の啓発を行いました。



小学校配布ノート



踏切事故防止チラシ

## ■JR九州からのお願い

**踏切手前で、必ず一旦停止してください。**

**もしも、踏切内に閉じ込められたら…**

あわてず、ゆっくり車を前進させて踏切から出てください。  
しゃ断棒は上がります。



**無理な踏切内通行はやめましょう!**

平成21年度は、踏切障害事故40件のうち24件は自動車の無理な踏切内通行(停滞、直前横断等)により発生したものでした。

## ■鉄道テロ対策の実施

鉄道テロ対策については、国土交通省の指導に基づき様々な取り組みを実施しています。関係社員等による巡回警備の強化や設備の増強を行うとともに、駅や列車内において、お客さまに対して不審物発見時の通報の協力依頼を行うなど、テロの警戒にあたっています。

### 【テロ対策の取り組み事例】

- 社員等の巡回警備の実施
- 防犯カメラの設置
- 駅や列車内における、お客さまへの不審物発見時の協力放送の実施
- テロ警戒中のお知らせの実施
  - ・「特別警戒中」看板掲出
  - ・「不審物発見時の三原則」ポスター掲示
  - ・「特別警戒実施のお知らせ」4カ国語(日本語、英語、韓国語、中国語)ポスターの掲示
- SOSシールによる車内の非常ボタン設置位置の明確化



ポスター



4カ国語ポスター

## ■JR九州からのお願い

**駅構内や車内などで不審物や不審な人を発見した場合は、直ちにお近くのJR社員または警察にお知らせください。**

## ■安全報告書へのご意見

JR九州ホームページ画面最上段の「お問い合わせ」内にある「その他のご意見ご要望」で、お客さまのご意見をお伺いしております。



新博多駅ビル「JR博多シティ」完成予想図(平成23年春開業)